



## 都城で育てた肉牛を全国1位に!

9月7日から宮城県仙台市で開催される第11回全国和牛能力共進会・第8区「肉牛の部」に、宮崎県代表として選ばれた薬師憲一さん(高崎町縄瀬)が7月18日、池田市長へ出品を報告しました。約300頭の肉牛を肥育する薬師さんは、就農25年目の中堅肥育農家。今回の出品牛「満天明彰」号には、餌や温度管理など特に気を配りました。池田市長は「市民の期待を力に変えて頑張ってください」と激励。薬師さんは「暑さで牛の食べる量が落ちないよう、万全な態勢で本番を迎えたい」と話しました。



全国和牛能力共進会出品報告

## 夢を持つ素晴らしさを学ぶ

JFAこころのプロジェクト「夢の教室」が7月18日、南小小学校で開催されました。スポーツ選手などを「夢先生」として学校に派遣し、「夢を持つこと、その夢に向かって努力することの大切さ」を子どもたちに伝えるこの事業。児童らは、女子プロゴルファー平瀬真由美さんの経験を元にした、夢をかなえるための努力や大切にしたことなどの話に、熱心に耳を傾けていました。講義を受けた児童らは、将来の夢や好きなことなどをまとめる「夢シート」を記入し、元気よく発表していました。



JFAこころのプロジェクト「夢の教室」

## ふるさと納税がつなぐ支援の輪

九州北部豪雨災害被災地を支援するための義援金が7月19日、都城市ふるさと納税振興協議会から池田市長に贈呈されました。ふるさと納税の返礼品を送送する84事業者で構成する同協議会。この義援金は、7月5日からの豪雨で被害を受けた九州北部地域に、日本赤十字社宮崎県支部都城地区を通じて届けられます。同協議会の久保順一会長は「会員の何かできることはないかという思いが集まり、義援金を送ることが実現できた。被災地の復興に役立ててほしい」と話していました。



ふるさと納税振興協議会、義援金の贈呈

## 深まるモンゴルとの絆

都城市民交流団が7月31日から8月7日にかけて、本市の友好交流都市であるモンゴル国ウランバートル市を訪問しました。訪問に先立ち、7月25日には出発式を実施。交流団員10人がモンゴル訪問への抱負を語り、池田市長が激励しました。ウランバートル市に到着した団員らは、移動式住居「ゲル」での生活や乗馬など、遊牧民の暮らしを体験。また、日本の文化をウランバートルの人たちに紹介するため、浴衣を着て「もちお桜音頭」を踊るなど、都城とウランバートルの友好の絆を一層深めました。



市民交流団モンゴル訪問

## 慢性腎臓病の重症化を抑制

慢性腎臓病(CKD)の重症化予防のため、診療に当たるとかかりつけ医と腎臓専門医の円滑な診療連携を図る「CKD予防連携システム」の稼働に合わせた認定証の交付式が7月26日、市長室で行われました。透析導入抑制のための取り組み。今回は「第1回都城市CKD予防連携医認定研修」を受講した医師を認定するもので、都城市北諸郡医師会の宇宿修隆(うすくのおさむら)医師が代表して認定証を受け取りました。宇宿医師は「重症化を防ぐ指導や治療など、積極的に取り組んでいきたい」と力を込めていました。



CKD認定書交付式





## 世界へ羽ばたく人材の育成

都城市中学生海外派遣研修の出発式が7月28日、中央公民館で行われました。8月3日から7日間、オーストラリアクイーンズランド州に滞在し、現地の中高等学校で授業を受けたり、視察をしたりすることで、国際性豊かな生徒を育成するこの研修。参加した20人の生徒らは、事前の英会話指導などを通して、英語力の向上に取り組んできました。式では、一人一人、英語で抱負を発表。小林穂乃佳さん(中郷中3年)は「たくさんの方々と交流し、日本ではできない経験をした」と話していました。



中学生海外派遣研修出発式

## 経験を生かし地域振興に貢献

本市の新しい地域おこし協力隊に着任した西山久瑠美さんへの辞令交付式が8月1日、市長室で行われました。千葉県でアパレルの販売や通信販売の物流部門で、企画や人材育成などの業務に携わっていた西山さん。父親が本市出身という縁から、地域おこし協力隊として婚活支援業務に取り組みます。池田市長から辞令を受け取ると、西山さんは「市民の皆さんがもてるようなイベントを企画し、人と人をつなぐ役割を果たしたい」と意気込みを語りました。



地域おこし協力隊辞令交付式

## 健やかな一日の始まり

山田町一斉ラジオ体操が8月11日、町内の3施設で開催されました。地域住民の健康増進と交流を目的に山田地区まちづくり協議会が企画したこの催しに、約300人が参加。山田体育館では、県のキャラクター「みやぎき犬「むうちゃん」と一緒に、ラジオ体操と県が推進する「1130体操」を行い、爽やかな汗を流しました。同協議会会長の牛谷勝郎さん(山田町山田)は「3世代で参加する家族もいた。今後も地域を挙げて健康づくりに取り組みたい」と初めての企画に手応えを感じていました。



山田町一斉ラジオ体操



## 都城の夏の景色

今年も市内各所で六月灯や夏祭りのほか、さまざまな催しが開催されました。とりわけ、六月灯など地域の夏祭りは、市内140カ所余りで開催。連日、多くの人でにぎわいました。



科長神社六月灯・からくり花火



お雪さんの杯流し



高城盆おどり



盆地まつり



多田りんご園・りんご狩り体験

# 人の風景

smiling faces of miyakonojo



## 都城工業高校 建設技術部

右から

坂口 葵さん (3年)

武田 真衣さん (3年)

松元 優希君 (1年)

7月8日と9日に鹿児島市で開催された「高校生ものづくりコンテスト九州大会」で、都城工業高校建設技術部の坂口葵さん、武田真衣さん、松元優希君のチームが、測量部門の最優秀賞を受賞しました。

3人は11月に岡山県で開催される全国大会に出場。同校の全国大会出場は、9年ぶり3回目となります。

同コンテストは、工業高校生のものづくりの意識高揚と、技術・技能の向上を目的に毎年開催されています。その全国大会は「ものづくり甲子園」とも呼ばれています。電気工事や旋盤作業、化学分析な

どの8部門に各県の代表が参加。日頃の学習の成果と技能を競い合います。

同校が出場した測量部門には、九州各県の代表の座を勝ち取った8校が出場しました。競技は、屋外で測量機器を使って五角形の内角と測点間の距離を測定し、その値から計算書を作成。測定や計算の速さと正確さを競い合いました。坂口さんらは、精度、速さ共に高い評価を得て、見事、最優秀賞を受賞。武田さんは「正解と誤差があり、1位は難しい」と思っていたので驚いた」と大会を振り返り、1年生の松元君は「緊張した

けれど、1位を取ることができうれしかった」と喜びを話します。

3人の所属する建設技術部は、学科の専門性を高める都城工業高校の伝統ある部活動です。現在は、建設システム科の生徒10人が所属していて、測量や木材加工などを、実習を交えながらより深く学んでいます。

昨年の九州大会でも2位の成績を収めた坂口さんと武田さん。毎日授業が終わった後、先生や周りの人たちからアドバイスをもらい、器械の据え付け方などを変えながら、最優秀賞獲得を目指して精度を高めることに努力を重ねて

きました。

顧問の皿良誠志教諭は、3人の受賞をたたえる一方で「九州大会に進めなかった部員たちも3人をサポートするなど、建設技術部が一丸となって取り組んだことが受賞につながった」と日頃の活動を評価します。

11月の全国大会に向けて、坂口さんは「他のメンバーの思いを胸に、3年間の成果を出せるようにがんばりたい」と話し、武田さんは「九州大会では力を出し切れなかったので、後悔しないようにベストを尽くしたい」と意気込みを話していました。





**チーム一丸となって  
目指すは全国1位！**